

第18回ドリームチャレンジ賞 応募申請書

(在学生のチャレンジ活動資金)

2024年 6月 14日

広島大学校友会会長 越智 光夫 殿

広島大学同窓会会長 原田 康夫 殿

校友会会員番号(13桁) _____

申請代表者 上田実穂 (うへだみほ)

所属・学年・学籍番号 医学部3年 _____

活動グループ又は所属 Kasumi-Bloodonors

電話(携帯) _____

Eメール(PC) _____@hiroshima-u.ac.jp

「第18回ドリームチャレンジ賞応募要領」に基づき、以下のとおり申請します。

活動テーマ

献血によって広島大学からつなぐ命のバトン

共同活動者	別途参照	共同活動者人数	48名
-------	------	---------	-----

活動期間 : 2024年 10月 1日 ~ 2025年 9月 30日

1. 活動計画の概要

独創性・ドリーム性・チャレンジ性・社会貢献性・発展性をふまえて記述し、5つの項目それぞれの記載箇所には下線を引いてください。(1)~(5)合わせて1,200字以内でまとめてください。

(1) 活動テーマの背景

献血により集められた血液は、年間100万人いるとされる輸血を必要としている患者さんへの輸血用血液製剤に加え、血漿分画製剤という医療品を作るために使われています。医療の技術が進歩した現代でも血液は人工的に作ることができず、長期保存もできません。そして1人の献血者が1年間に献血をできる回数も限られているため、血液を必要とする人に安定して届けるためには多くの人に継続して献血に協力していただく必要があります。このような献血に関する実態を学生に広く知っていただき、広島大学という単位で社会に貢献していきたいと考えています。

(2) 活動の目的

学生を中心とする若年層に、献血の重要性を知っていただき、一人でも多くの方に献血をしていただくことを目的とします。また、一度献血にご協力していただいた方々が、継続して献血しやすい環境づくりを目指します。

(3) 活動の必要性

(1)に記した通り、多くの献血者の継続した協力が必要とされています。年代別の献血状況では、16歳から29歳の若年層は2割程度であり、減少傾向にあります。献血の条件により70歳以上の方には協力していただくことができず、少子高齢化のすすむ現代では若年層の献血への協力が必要不可欠であることが分かります。

(4) 活動の特徴

広島県赤十字血液センター様に御協力いただき、広島大学霞キャンパスを中心に広島大学の全キャンパスでの学内献血や、市内のショッピングセンター等で献血の推進活動を行います。また、血液センター見学を年に1回行い、そこで私たちが学んだことを instagram や X などの SNS を用いて情報を広く共有していきます。

(5) 期待される結果

広島大学霞キャンパスでの唯一の献血に関するサークルである当サークルの活動により、将来医療に従事する学生の血液事業に対する意識を高めることが期待されます。また、学内献血を行うことにより、献血をすることへのハードルを下げ、初めて献血をする人の増加、ひいては若年層の献血者数の増加が見込まれます。実際に今年度の春の霞キャンパス学内献血では受付者数89名、

献血者数 79 名であり、そのうち 38.6%の方が初めて献血をしてくださった方でした。このような方々に継続してご協力していただくためにも、当サークルの SNS を通じた情報発信や、春と冬 2 回の学内献血の実施といった活動が献血しやすい環境づくりに役立つと考えています。

2. 活動実施計画 (2,000 字以内) 具体的な活動実施計画の記載箇所に下線を引いてください。

1. 学内献血実施を通じた霞キャンパス生への献血推進

Kasumi-Bloodonors は年に二回、広島大学霞キャンパスへの献血バス派遣を企画しています。広島県赤十字血液センターの方にご協力いただき、献血バスで 400ml 献血を行います。学内献血までは、学内献血の宣伝ポスター制作や記念品の準備、事前の霞キャンパス学生への呼びかけ、SNS での宣伝などを部員で行います。学内献血当日は、部員による呼びかけや、献血記念品の配布などを行い少しでも多くの学生をはじめとする霞キャンパスのすべての方々に献血にご協力いただけるように活動します。そして学内献血後には次の学内献血でより多くの方に献血してもらうこと、献血していただく方がスムーズに献血してもらうために反省会を行います。

時期としては春季と冬季を計画しています。春季では新入生が入学する時期に学内献血を行うことで、将来医療従事者となる霞キャンパス学生に献血の重要性を伝えるとともに、献血を身近に感じていただくとても良い機会となっております。冬季については、気温が下がり外出が減るために献血者数が減少し、長期保存できず継続的な献血への協力が必要となる輸血用血液の確保が難しくなります。冬に学内献血を実施し、献血者を増やすことで、輸血用血液不足解消に貢献することができます。若年初回献血者数は 18 歳から 22 歳でみると大学一年生にあたる 19 歳が最も多くなっています。医療従事者となる学生に継続的な献血の重要性を発信する良い機会となっております。また献血をはじめた年度に 1 回行う方よりも 2 回以上行う方のほうがその後の献血持続率が高くなります。学内献血を 2 回行うことで献血を持続してくださる一助になると考えています。

また、当日の呼びかけだけでなく、学内献血の日程調整やタイムスケジュール、ポスターの作成などの企画・運営も部員自身で行うことによって、部員の管理能力や企画能力、臨機応変に対応する力を身に着けます。

2. 血液センター訪問による医学生の血液事業への理解促進

夏には広島県赤十字血液センターの方にご協力いただき、部員でセンター見学をさせていただきます。献血で集められた血液が輸血用製剤になる過程での検査や輸送システムについて見学させていただくだけでなく、献血の歴史や献血動向についての勉強もさせていただきます。部員は献血の正しい知識を身に着け、献血推進活動の重要性を再認識することができます。部員の数も 50 名に増えた今部員から広がる影響力も大きくなりました。正しい知識を持つことはとても有用なことだと考えられます。またセンター見学後には広島県赤十字血液センター訪問で学んだことについて、コラムを作成・発信していくことを通じて、部員以外の霞キャンパス学生にも、将来医療従事者となる者として、献血への理解を深めていただく重要な機会となっております。

3. 献血ボランティアへの参加による奉仕活動

広島県赤十字血液センター主催で行われる商業施設などへの献血バス配車やその他イベントに、学生ボランティアとして参加させていただきます。ボランティア活動参加による社会貢献のみならず、他大学・高校の献血推進団体とも交流を深めることができます。また、広島県赤十字血液センターで働く医療従事者の方と一緒に活動するため、学生のうちから医療従事者のお仕事の様子を見られる貴重な機会にもなっております。

4. 霞祭での献血に関する展示

霞キャンパスで 10 月ごろに行われる霞祭において献血に関する展示を行います。前年度では献血に関する献血に関するポスターの展示、献血に関するクイズ、模擬血液バッグや献血に使用する機械の展示、冬の学内献血の宣伝などを行いました。広島県赤十字血液センターで学んだことなどをもとに献血に関する知識を広げることで霞キャンパスの学生だけでなく学外の方にも献血について知ってもらえる機会になっています。

5. 東広島キャンパス・東千田キャンパス生への献血推進

(様式1)

令和5年度から広島大学唯一の献血活動推進サークルになったため、広島県赤十字血液センター様のサポートのもと、東広島キャンパス、東千田キャンパスでの献血推進活動も行います。当サークルには霞キャンパスだけではなく、東広島キャンパスや東千田キャンパスの学生も入部しているため、それぞれのキャンパスの学生を中心に活動をします。1に記載した霞キャンパス学内献血ほど、運営に関わることは難しいですが、広島大学全体の献血推進を行っていくため、呼びかけなどの部員の派遣などを行います。

3. 助成金交付申請額

70,000 (円)

(経費の必要性) 枠内におさまるように記載し、具体的内容の記載箇所に下線を引いてください。

活動実施計画1に記した学内献血の実施では、以下の項目で主に費用を使います。

- ・献血にご協力いただいた方へのお礼の記念品の用意
- ・呼びかけの際に使うプラカードの作成 (印刷代やテープなどの備品代)
- ・学内献血お知らせのポスターの印刷代

特に、献血していただいた方へのお礼の記念品は、部費だけでは十分な量を用意できないため、ぜひ支援していただきたいと思います。

活動実施計画2の血液センター見学、3の献血ボランティアでは、交通費が発生します。当サークルは東広島キャンパスの部員も多く所属しており、市内での活動に参加しやすい環境を整えるためには交通費の補助が必要となります。特に3の献血ボランティアでは、公共交通機関を乗り継いでいかなければならないショッピングモールでの活動もあり、より多くのサークル員が参加するために交通費の支援もしていただきたいと思います。

活動実施計画4の霞祭では、展示のための印刷代や展示室までの案内の製作に費用がかかります。学生だけでなく学外の方にも広く献血について知っていただき、献血者数の増加のために、重要な機会であるために支援をしていただけたらと思います。

4. 収支予算計画 (支出予定額合計と収入予定額合計を一致させること。)

※実施計画全体に係る支出・収入経費 (部費, 参加費, 大学や企業からの支援等, 本支援以外の経費も含める) を記載すること。

※支出予定経費に記載した内容以外への支出は認めません。

●**支出予定経費**

経費区分	摘要 (内訳)	金額 (円)
設備備品・消耗品費	学内献血記念品	15,000 円 × 2 回
	印刷代	3,500 円 × 2 回
	道具購入代	5,000 円 × 1 回
		42,000 円
行事費	霞祭物品購入代	22,000 円 × 1 回
	霞祭印刷代	8,000 円 × 1 回
		30,000 円
交通費	血液センター訪問	15,000 円 × 1 回
	献血ボランティア	1,500 円 × 6 回
		24,000 円
その他経費		
支出合計		96,000 円

(様式1)

経費区分	摘要(内訳)	金額(円)
本支援	ドリームチャレンジ賞	70,000円
部費	1,000円×26名	26,000円
収入合計		96,000円

5. その他

① 前回ドリームチャレンジ賞の採択団体は、活動状況(進捗状況等)を200字程度で記載してください

前回、ドリームチャレンジ賞で支援していただき、無事献血推進活動を行うことができました。
特に力を入れている学内献血では、R6年度春の霞キャンパス学内献血において、過去最高人数である79名の方に協力いただきました。献血をしていただいた方を対象に行ったアンケートでは、献血のきっかけが当サークルの呼びかけが45.5%と最大であり、私どもの活動が献血者数の増加につながっていることを実感できました。

② 他の機関等への重複申請・採択状況の有無について

□ 有

()

無

③ 指導教職員またはチューターの推薦 ※必須(推薦文がない場合は申請不可)

Kasumi-Bloodonors は霞キャンパスの医療系学生を中心に結成された献血推進活動をおこなうボランティアサークルです。現在まで、献血ボランティアのほか、霞キャンパスにおける献血の実施、血液事業に関する啓発等の活動を積極的に展開しています。少子高齢化に伴って献血可能人口が減少し、医療において安定的な血液の確保が困難になっていることから、Kasumi-Bloodonors の活動は社会的意義が高く、ドリームチャレンジ賞にふさわしいと考え、ここに推薦いたします。

指導教職員/チューター(所属) 広島大学大学院医系科学科 救急集中医療学
(職名) 教授 (氏名) 志馬 伸朗
2024年 6月 14日 (電話) [REDACTED] (E-mail) [REDACTED]@hiroshima-u.ac.jp

●申請書は4ページ以内で作成すること